

[特産・伝統野菜の活用および生産性向上]

亀戸ダイコンの作期拡大  
～夏季収穫および秋季収穫～

野呂孝史・森 研史  
(江戸川分場)

---

【要 約】高温期の播種，栽培でもトンネル遮光処理により抽苔回避，品質向上が図られ，作期が拡大される。

---

【目 的】

昨年度の結果から亀戸ダイコン市販品種の安定収穫期は12月～5月，また在来系は12月～3月であると結論した。本試験は高温期における遮光処理の生育への影響を明らかにし，さらに作期拡大を図る。

【方 法】

(試験1)市販品種の夏季および秋季収穫(露地)：白茎亀井戸(日本農林社)および白茎亀戸(渡辺農事)を用いた。5月6日播種では白寒冷紗(#300, 22%遮光率)で，8月23日播種では銀寒冷紗(#109, 39%遮光率)でトンネル遮光処理を行った。

(試験2)在来亀戸(鈴木系)の秋季収穫(露地)：9月4日播種では銀寒冷紗のトンネル遮光処理を行った。20日播種は無処理とした。

なお各試験とも施肥は10aあたり3要素成分量15kgの全量基肥，条間25cm3条・株間15cmとした。

【成果の概要】

- 1)市販品種の夏季収穫(表1)：白寒冷紗処理区の生育はやや劣り，抽苔もやや早い傾向であった。品種では白茎亀戸の生育が良好で，抽苔も少なかった。なお生育期間の平均気温などには差異はなかった(表省略)。したがって市販品種の利用によって，遮光処理せずとも，6月の安定収穫が可能と考えられる。
- 2)市販品種の秋季収穫(表2)：銀寒冷紗処理区の生育がやや遅れた程度であり，大きな差異はみられなかった。また無処理区に多い中太りなどの乱形根は減少し，上物株率が向上した。抽苔は認められず，す入りも白茎亀戸で若干みられた程度であった。これらから白茎亀井戸の遮光栽培により10月上旬収穫が可能と考えられる。
- 3)在来亀戸(鈴木系)の秋季収穫(表3)：生育は無処理区が早い，抽苔が多かった。根部は中太りが多く，上物株も少なかった。銀寒冷紗処理区は生育がやや遅れたが，抽苔は少なく，根形も良好であった。3日後の再調査でも同様に抽苔が少なく，根部肥大も良好であった。これらから遮光栽培により10月中旬収穫は可能であると考えられる。また9月下旬播種11月収穫は良株が収穫できた。

作期拡大試験まとめ(図1)：おもな収穫期が1～3月である在来亀戸ダイコンもハウスの利用により12月中旬～4月中旬に，また冬季ハウス内の高温処理および夏季の遮光処理により，抽苔回避および品質向上となった結果，10月中旬～5月中旬の収穫が可能である。さらに形状，品質がやや異なるが，市販品種の利用により，10月～6月の安定した収穫が可能となり，従来より大幅な作期拡大となった。

表 1. 市販品種の 5 月播種における収量・品質

試験区	品種	茎葉重 g	根重 g	茎葉重 根重	根長 cm	根径 cm	抽苔株率		
							6月12日 %	6月15日 %	6月19日 %
防虫ネット区	白茎亀井戸	231	121	1.9	19.2	4.1	8.3	26.4	32.1
	白茎亀戸	260	139	1.9	20.6	4.1	0.0	0.0	10.0
防虫ネット+ 白寒冷紗区	白茎亀井戸	210	104	2.0	18.5	3.8	16.7	26.8	32.7
	白茎亀戸	229	115	2.0	19.6	4.1	3.3	0.0	1.8

播種：5月8日, 収穫調査：6月13日（播種後36日）

表 2. 市販品種の 8 月播種における収量・品質

試験区	品種	茎葉重 g	根重 g	茎葉重 根重	根長 cm	根径 cm	上物株率 %
	白茎亀戸	218	132	1.7	17.1	4.0	32.5
防虫ネット+	白茎亀井戸	182	132	1.4	18.9	3.8	80.0
銀寒冷紗区	白茎亀戸	200	134	1.5	18.8	4.0	65.0

播種：8月23日, 収穫調査：10月2日（播種後40日）および5日

表 3. 在来品種の 9 月播種における収量・品質

試験区	収穫 調査日	茎葉重 g	根重 g	茎葉重 根重	根長 cm	根径 cm	上物株率 %	抽苔株率 %
防虫ネット+ 銀寒冷紗区	10月16日	170	118	1.4	19.2	3.6	95.6	3.3
	10月19日	199	167	1.2	21.6	3.9	93.3	3.3
防虫ネット区 (9月20日播種)	11月4日	172	129	1.3	19.9	4.0	88.9	0.0

播種：9月4日, 収穫調査：10月16日および19日（播種後42日および45日）  
防虫ネット：べた掛け。収穫調査：11月4日（播種後45日）

図 1. 収穫可能期間

